

# DO FIELD

Doshisha  
University

同志社大学スポーツ健康科学部教員父母連絡会報 [ドウ・フィールド]



2021.11 **19**

リサーチ! スポ健ゼミ

# 学びで広がる無限の可能性

スポーツ健康科学部では、個性豊かなゼミが様々なテーマの研究を行っています。学生たちはそこでどんなことを学び、どのように活かしていくのでしょうか。今号では3つのゼミを紹介します。



トレーニング科学ゼミ  
新井彩 助教

【主な研究分野】

トレーニング科学の中でも、実際のスポーツ現場で起きている動作や筋肉の活動などの仕組みを追いかけられるのが、私の大きなテーマです。私自身、かつて陸上の七種競技をしていたの

【学びの特徴】  
3年生の春学期は、データを取るための実験方法の基礎学習や文献抄読を通じて、研究のイメージをつかんでもらいます。秋学期からは翌年の卒業研究に備えたミニ研究をグループで行います。ここでデータ収集と分析を繰り返す中で実践力を培い、方法論の熟考や、自分の競技に関する疑問点などを整理してもらいます。

私のゼミでは、できるだけフィールド実験を行うようにしています。陸上選手ならトラックで走ってみる、サッカー選手ならサッカー場でプレーをしてみるなど、アスリートのリアリティに近い状態でデータを集めます。現場で取りきれないデータは実験室で取ってみる。そしてフィールドと実験室を往復しながら論理的思考力とアウトプット力を育て、学生たちのトレーニング方法が磨かれていくように指導しています。

で、特に関心のあるのが、速く走る、高く遠くへ跳ぶという動作のメカニズムです。実際にこれらの動作を記録して分析し、それを基により良いトレーニング方法を導き出すという研究スタイルです。長年注目しているのは、筋肉と腱全体がバネのように振る舞う Stretch-shortening cycle です。日常生活の動作にも注目し、女性のハイヒール歩行の美しさの検討なども行っています。

ご挨拶 教員父母連絡会会長 森本理恵



教員父母連絡会会員の皆様、並びに教職員の皆様、平素は会の運営におきまして多大なるご理解とご協力をいただきまして、心より厚く御礼申し上げます。これまで会に携わった方々の思いを引き継ぎ、次に繋げていけるよう微力ではございますがお手伝いをさせていただく事となりました。よろしく願っています。父母会は例年総会、懇親会を通じご父母の皆様と教職員の方々の連絡を密にする機会を設けており、今年度はオンラインでの総会開催となりましたが、多くの会員の方々にご参加いただき有意義なひと時を共有できました。また新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学業継続のためにさらなる支援が必要な学生に対しての新たな奨学金制度「スポーツ健康科学部教員父母連絡会緊急対応奨

学金」を昨年6月に創立。教育事業の援助、充実発展を図ることを目的とし学生生活を支援する思いからのものです。このコロナ禍において学生の方々が本来経験できうるはずの日常が制限されている現状を学校関係者の方々はもちろんの事、何より悔恨の思いをご父母の皆様も感じておられる事と存じますが、授業や部活に学生の自主性を尊重する土壌があり創立者・新島襄先生の志「自由」と「良心」を基に「同志」である学生の方々が社会人基礎を身につけ、世界へと羽ばたく勇敢な姿をご父母の皆様と見守ることができれば、と思います。最後になりましたが、より良い教員父母連絡会となりますよう、皆様のご意見、ご協力いただきますよう心よりお願い申し上げます。

CONTENTS

ご挨拶 森本理恵会長

- 01 特集 リサーチ! スポ健ゼミ 学びで広がる無限の可能性  
新井先生・小島隆文さん・石倉先生・田中颯太郎さん・横山先生・小合雅人さん
- 06 ATHLETE スポ健アスリート列伝  
028 岩淵圭登さん / 029 菰方里菜さん
- 08 FOCUS スポ健きりり  
013 川本貴和子さん
- 09 LETTER 母から子へ、子から母へ  
高橋美津子さん・高橋海志さん
- 10 ACADEMIC 成績通知書の確認方法
- 11 TOPICS  
最先端の実験機器紹介 / 2021教員父母連絡会 総会レポート  
スポーツ健康科学部生の活躍 / 「コロナ禍におけるスポーツを巡る動向」講演会開催報告
- 17 ANNOUNCEMENT  
新しく着任された先生から自己紹介 築瀬先生・西牧先生  
「新型コロナウイルスに係る奨学金」について / 寄贈図書

【DO-FIELD[ドゥ・フィールド]—同志社大学スポーツ健康科学部教員父母連絡会報—】

「DO」は、行う、行動を起こすこと、能動的、積極的な姿勢を示し、DOSHISHAの「DO」も意識しています。そして「FIELD」は文字通り、フィールド、場の意、スポーツのイメージも喚起させます。DOSHISHAおよびスポーツ健康科学部というフィールドで、何が出来るか、教員、父母、もちろん学生も一緒になって考えるための相互のコミュニケーションの場でありたいという願いを込めました。(ネーミング/辻田和樹・父母会員OB)

【オンライン】

学生はともすると、〇か×か、白か黒かという解答を性急に求めがちです。でもデータを扱うときは、グレーな部分やグラデーションのどの部分か、どんな意味を持つのかを見極める

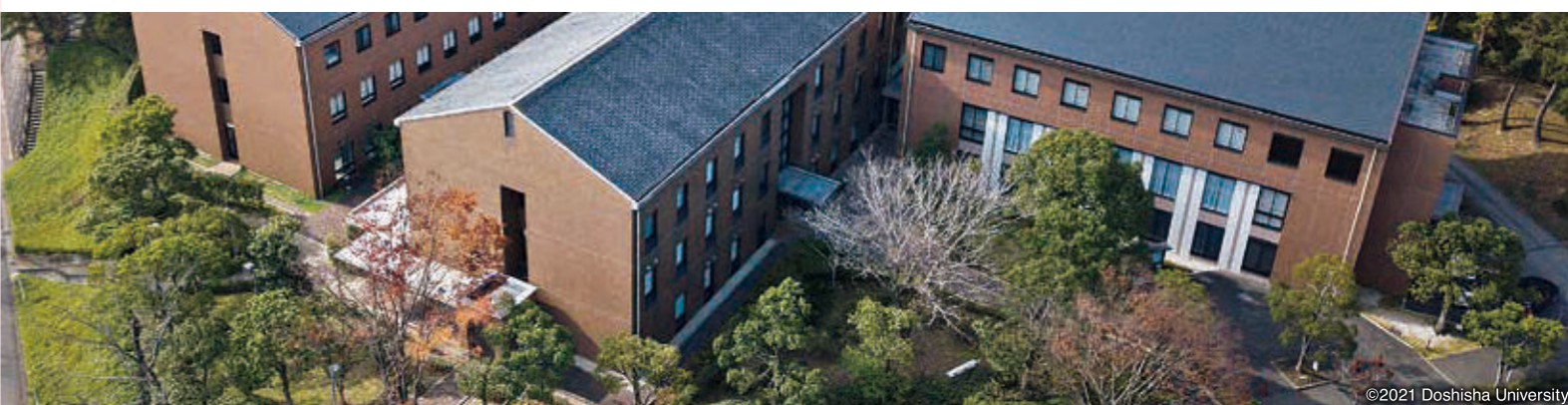
【コロナ禍での工夫】

昨年のオンラインゼミでは、学生のスマートフォンが役立ちました。最近のスマートフォンカメラは非常に性能が向上しているので、正しい方法で撮影すれば、ある程度分析可能な動画が得られます。対面で実験ができない期間でも、学生に自宅で動作撮影と分析をしてもらうことができました。



ことが重要です。私が正解を持ち合わせているわけはありません。正解は学生自身が見つけるもの。身体の動きについては学生より私の方がよく知っていますが、特定の競技の動作については、その競技に取り組んでいる学生の方がよく知っています。学生には、私に教えるぐらいの高い意識と意欲を持って、自分の学びたい世界を構築してほしいと期待しています。

今年のオリンピック・パラリンピックでこらんなったように、トップア



スリートのハイパフォーマンスは本当に素晴らしい、かつ日々更新されています。私も学生と一緒に、日々進化するアスリートの世界を追いかけたいと思います。

ゼミ生's Voice

トレーニング科学ゼミ  
小島 隆文さん  
(4年次生)

私の研究テーマ

中学時代からずっと陸上競技を続けてきて、大学でも体育会陸上部に所属しています。競技の現場にダイレクトに活かせる研究がなかったので、ゼミではミニハードルを用いた介入トレーニングの即時効果について研究しています。ミニハードルは高さ10センチのハードルで、主に短距離走のフォームの矯正に使われるものです。これを使ったトレーニングは現場でよく行われているのですが、実際にはコーチの経験則などによるものが多く、科学的知見が意外に少ないので卒論のテーマに選



小島 隆文さん

びました。実験ではミニハードルを並べてコースの横に光電管を設置し、赤外線センサーやハイスピードカメラを用いて、タイム、ストライド、脚の回転数などを計測。その前後に、ハードルなしで走った場合も計測し、パソコンでデータの変化を分析します。現在は自分の通常のストライドに対し、ミニハードルを置く間隔がどの程度であればトレーニングに効果的なのかを検証中です。

ゼミの学び

学生はスポーツバイオメカニクスの手法を用いて動作解析を行い、自分が取り組んでいる競技のパフォーマンス向上を目指す研究を行っています。私の学年には陸上部員が多いのですが、野球部員なら陸上の走法を取り入れて盗塁の効果的なスタートを研究したり、ポルト部員なら漕ぎ方を研究したり、新井先生によく指導されるのは、物事を○か×だけで判断せず、常にその理由を考えるといいことです。実験なら結果の良し悪しを論じるよりも、そもそも自分は何を知らなくてこの実験をしたのかという、根本と向き合うことの大切さを学んできました。これは研究に限らず、長い人生にも必要な姿勢だと思っています。

ゼミの自慢ポイント

ピリッとした中にも和気あいあいとした雰囲気のあるゼミです。新井先生

部活の下級生などが抱えるメンタル的な弱さを克服したいという動機から、スポーツ心理学に関心を持つケースが多いようです。その上で、競技力やモチベーションの向上、効果的な指導法の開発などに繋がる研究しています。示範の示し方、対人スポーツ経験者の目の動きと予測能力との関係、パフォーマンス向上に繋がる声かけ、スランプからの脱出方法など、テーマは多様です。あまり制限を設けずオープンな雰囲気の中で、各自の関心を育ててもらっています。大学院生の勉強会に、自主的に参加する学生もいます。

学生たちは実験室での実験や質問紙調査で集めたデータの分析などを行いながら、研究を進めています。教科書

や先行研究を調べてキーワードを探し当てるのに労力を費やしたり、調査研究の場合は質問項目や分析手法の準備に時間がかかったりと地道な努力が求められますが、自分は何を知りたいのかという素朴な疑問を出発点にして、物事を突き詰めて考えてほしいと思います。

卒業研究は余裕を持った日程で行います。3年次の秋学期から実験を始め、1月には卒研テーマを提出してもらいます。就職活動の面接ではゼミ研究について質問される機会が多いので、早めに回答の材料を作っておいてほしいという親心でもあります。

ゼミ生の進路

卒業生は業種を問わず、教員、地方公務員、金融、メーカーなどさまざまな方面に進んでいます。教えることに興味のある学生は、大学院に進学するケースも多いです。観察学習を研究するために他大学からスポ研の大学院に来る学生もいます。

【おまけ】

心理という、目に見えないものを研究対象にする難しさはあります。しかし分かりにくいことであっても自分の実体験に引き寄せて理解し、貪欲に吸収してほしいものです。そして吸収した知識を、行動によって自分のものにしてほ

は研究に対しては妥協を許さないですが、先生に厳しく指導していただいたおかげで、私たちが自分で突き詰めて考える力がついたと思います。仲間とディスカッションを重ねながら視野を広げていきたい人におすすめしたいゼミです。

卒業後の進路

鉄道会社への就職を志望しています。旅行が好きだし、人と一緒にいるのが好きなので、人の集まる駅という場所を中心に街づくりを行い、街を運営する鉄道事業に関心があります。一方で研究の面白さにも目覚めたので、社会に出た後で大学院に戻る選択肢も考えています。就職しても陸上競技は続けて、100mで日本選手権に出場するのが目標です。

コロナ禍の影響

昨年の春学期はすべての授業がオンラインになりましたが、その間ゼミでは卒論の準備として、各自で実験などを行っていました。自分でジャンプの動画を撮影して滞空時間を調べたり、簡易ソフトを用いて歩幅を計測したり。その結果をオンラインや電話で議論し、最終的にオンラインで発表会を行なって先生から講評をいただくという形でした。オンラインでのやりくさは多少ありましたが、討論が不可欠なゼミなので、自然に全体がまとまっていたと思います。

ゼミ生's Voice

スポーツ心理学ゼミ  
田中 颯太郎さん  
(4年次生)

私の研究テーマ

研究テーマは、Dyad training (ダイアド・トレーニング)。観察学習の一種で、2人1組で行うペア学習です。教育実習先で、リレーのバトンパスの練習を2組のペアの間で観察し合ったことなどをきっかけに、この研究を企画しました。



田中 颯太郎さん

しい。情報が氾濫し、自ら考えなくても容易に教えてもらえる時代にこそ、そのような意欲と情熱、探究心を持つて学んでいただきたいと思っています。また学生の皆さんには、自分の言いたいことをレポート用紙1枚にまとめられる力をつけてほしいものです。それには知識だけでなく、論理力、表現力、説得力も必要でしょう。このゼミで社会人としての基礎力をつけて、卒業してほしいと願っています。

スポーツ心理学ゼミ

石倉 忠夫 教授



主な研究分野

私はかつて小学校教員を目指してました。アルバイトでスポーツを教えることもあり、効率の良い教え方に関心を抱いたのがこの道に入る契機となりました。現在は、スポーツ技能を向上させ、試合で実力を発揮するための効率的で効果的な方法を、スポーツ・体育心理学の手法を用いて研究しています。特に観察学習やモデリングにおいて、手本を示す側とそれを観察する側との空間的な関係が学習成果に与える影響を分析し、指導に活かそうと考えています。最近では、声かけやほめ言葉などが学習者に与える影響を研究していました。

学びの特徴

私のゼミを志望する学生は、自身や

現在は卒論執筆に向けて、ダイアド・トレーニングが効果的に行える運動方法の検証を行っているところです。例えば、サッカーのキックという動作はダイアド・トレーニングに有効なのか、あるいは野球のスイングは有効かどうか、サッカーでは有効ではないのか。どのような特徴のある運動であればダイアド・トレーニングに効果的なのかを見つけるために、先行研究を読み、仮説を立てています。

現状では単純な動作よりも、バランススポーツのようにフォームが重要視される複雑な動きや、空間把握能力や全身の筋運動が求められる動き、タイムイングやテンポが重要視される動きなどがダイアド・トレーニングに効果的ではないかと考えています。現在、候補として考えているのは、大道芸で演じられるフラウースティック。2本の棒を使って1本の棒を操るジャグリングです。子どもの頃にテーマパークで見ているので、個人的な興味として続けているもので、これを2人1組で観察し合って学習するという実験を計画しています。

ゼミの学び

心理学の手法を用いて、スポーツ技能やモチベーションを向上させる方法を学んできました。3年次の春学期はオンラインで基礎を学び、秋学期は対面授業でさまざまな実験機器の使用法を学修。4年次は各自が分析などの作

業を進めています。例えば動体視力や反射神経を調べる実験をしたり、緊張のレベルを評価する機器を使った実験をメンタルトレーニングに応用したり。石倉先生の専門分野とは離れていても、豊富な機器を使って自分のやりたい研究ができる環境です。4年生は現在、毎回1人ずつが先生から個人指導を受けています。

▼ゼミの自慢ポイント

ラクロス部の学生はバスを動画に撮って分析したり、サッカー部の学生は目の動きと視野の広さや状況判断との関係を調べたりと、競技者あるいは指導者としての技能向上に、ダイレクトに活かせる研究ができます。

普段は穏やかに見守ってくださり、いざというときは頼りになる石倉先生の存在も大きいです。私は4年生になってから教育実習や大学院入試で多忙を極め、研究計画の提出に手間取ってしまいました。そんな時に私の断片的な関心を拾い上げて研究の方向性を示してくださった石倉先生に、心から感謝しています。

▼卒業後の進路

既にスポーツ健康科学研究科へ教授からの推薦をいただいています。大学院ではダイアド・トレーニングについて、ペア間の習熟度の違いによって効果に差があるのかなど、他の視点からも研究を続けていく予定です。大学院

修了後は保健体育の教員になりたいと考えています。

▼コロナ禍の影響

3年次の春学期は1回目のゼミからオンライン授業になったため、ゼミ仲間と打ち解けるまでに時間がかかりました。ただ春学期は各自がテキストや論文を読んでプレゼンを行う授業が多く、実験は当初から秋学期に予定されていたので、大きな影響はありませんでした。

スポーツ政策ゼミ

横山 勝彦 教授



【主な研究分野】

スポーツは人間の基本的な行動原理であり、社会の縮図でもあります。そしてスポーツとは「well-being」です。「well-being」とは、心も身体も社会的にも健康な状態です。健やかな社会と

ています。

現代社会は非常に重層的で複雑です。一つの問題に対して、一つの解があるわけはありません。学生には物事を俯瞰し、理論を学び、事実を積み重ねて、海中の氷山のように「見えていない部分」を拡大して考える姿勢を身につけてほしい。論理と熱い思いとの間を往来しながら、自分の頭で考えてほしいと思っています。そのためにもスポーツ政策フォーラム、企業との合同セミナー、学会などへの参加の機会を設けたり、専門家を招いてセミナーを行ったりしています。

【ゼミ生の進路】

毎年12名前後のゼミ生のうち、2名程度が大学院に進みます。社会科学領域を研究したい学生は総合政策科学研究科に進むこともあります。学生の就職先は県庁、警視庁などの公務員、商社、金融、メーカーなど多岐にわたります。個別面談による就職指導にも力を入れていきます。

【コメント】

就職活動中の学生に対しては、企業の見えない部分をよく調べるよう指導しています。企業理念と実践が一致しているか、社員の意欲などの「感情資産」は重視されているか、女性の雇用率、中途採用率、離職率はどうか。その上で、身の置き場所をよく考えてほしいと願っています。

ゼミ生's Voice 小合 雅人さん (4年次生)

▼私の研究テーマ

「スポーツが生み出す多様な価値を社会全体へと拡げるためには、スポーツ政策をどのようなプロセスで作ればよいか」について研究中です。私自身、これまでのスポーツ経験や学部での学びから、スポーツは教育的価値や経済的価値、心身の健康増進やコミュニティ形成の機能といった価値を生み出すと考えています。しかし、これらの価値と関連して、例えば部活動における体罰やアスリートのセカンドキャリア問題など、スポーツに関わる問題は数多く存在している現状にあります。そこで、「誰一人取り残さない」というSDGsの考え方にも合ったスポーツ振興政策を考えるのが現在のテーマです。具体的には政策セオリーをもとにスポーツ政策の現状を分析中です。例えば政策のプロセスを「問題認識から政策評価」の6段階に分けた政策形成の過程モデルがあります。今のスポーツ政策をこのモデルに当てはめ、具体的にどの段階にどのような課題があるのかを探っています。

▼ゼミの学び

横山ゼミは、各自が自分の問題意識に沿ってテーマを決め、発表し、ディスカッションをするスタイルです。そ

は人間の尊厳を尊重する社会です。障がいを持つ人は、そういう特性のある健やかな身体を持っているのです。そのような視点で従来のスポーツを見直し、スポーツ政策、政策科学、文化経済学、パブリックリレーションズなどを扱いながら、スポーツの持つ多面的機能を学際的に研究しています。最近では東京オリンピック・パラリンピックをめぐるスポーツ政策の動向を研究していました。

【学びの特徴】

従来のスポーツとは、消費されて終わってしまうものでした。部活で苦しい練習に耐えて忍耐力や統率力が培われ、社会人としての汎用力が備わったとしても、アスリートとしてのキャリアを実際に社会でのキャリアに繋げられるのはトップアスリートに限られます。スポーツに打ち込んだ人が社会で活躍するためのキャリアパスは、今なお整備されていません。そこを繋げるスポーツの存在価値とは何かを、常にゼミで問いかけています。

具体的には、スポーツを介して社会課題を解決する手法を指導していただきます。例えば、社会益と事業益とを両立させるCSV (Creating Shared Value) 経営とスポーツとの関係性を考えてみます。東京オリ・パラでは、最上位スポンサーであった自動車メーカーが国



小合 雅人さん

の中で先生の指導を受けながら、物事を論理的、体系的に考える力が得られたと思います。言葉の定義についても新しい視点から考える力がつきました。例えば私は「問題」と「課題」という言葉を、まったく区別せずに使っていました。しかし問題とは理想と現実との間に生じているギャップであり、そのギャップを埋めるために取り組むべき行動の目的や方向が課題であると明確に位置づけられるようになったことで、思考がより整理されるようになりました。

▼ゼミの自慢ポイント

横山ゼミではテーマ選択の自由度が非常に高いです。例えば、新聞社に就職する学生はスポーツとメディアを関係づけた研究をしたり、体育会所属の学生なら大学スポーツのあり方を文武両道の視点から考えたり。それに対して先生がそれぞれの確なアドバイスをされます。自分とは異なるテーマに毎回触れることによって新しい知見が



内CMから撤退しました。その企業はスポーツに投資していたわけですが、そうではなく、スポーツ自体を企業のバリューチェーン(価値連鎖)に入れ込むことができれば、スポーツ選手のキャリアパスの問題解決に繋げることも可能でしょう。あるいは、途上国へのスポーツ支援を考える。就学前教育がなされていない貧困国に、先進国の制度化したスポーツを導入してもらうべく機能しません。それよりも就学前の子どもの能力や自己肯定感を醸成し、内なるリーダーを育むことの方が重要ではないか。このような視点を大切にし

得られ、学びが深められるゼミです。横山先生は進路指導も非常に熱心にしてくださいます。私も研究の進め方などについて、1時間以上の面談を何度ももっていただきました。

▼卒業後の進路

総合政策科学研究科への進学を考えています。私はスポーツを手段として社会に役立てる政策を考えたいので、大学院で公共政策の中のスポーツという視点で学びながら、横山先生のもとで現在の研究を深化させたいです。大学院修了後は研究で身につけた思考力や問題解決能力などを活かして、総合商社などに就職したいと思っています。社会の変化に対して柔軟にビジネスの仕組みを作るといふ総合商社の仕事は、政策研究に通じる部分がありますから。

▼コロナ禍の影響

昨年春学期の講義がすべてオンライン化されたことです。私たちのゼミはディスカッションが中心ですが、オンラインでは表情が十分に伝わらず、発話者も常時1人だけに限られるという不便さがありました。一方で、オンライン化されたことによって今出川校地の授業も受けられたというメリットも。もともと経済やビジネスにも関心があったので、オンラインで経済学部や商学部の開講科目を履修できたのはありがたかったです。

### 世界に君臨するトップワラー

小4から世界を目指し  
ジュニア時代から世界のトップに

**バ** トンを使って身体表現を行うパ  
トントワーリング。宙高く投げ  
上げたバトンを回転しながらキャッチ  
する素早いボディワーク、バトンを見  
ずにキャッチする新体操のようなテク  
ニック、緻密な技をつなぐ流麗なダン  
スなど、一瞬たりとも目が離せないス  
ポーツだ。

岩淵さんが6歳の時、母がバトンス  
クールを開校。当時から遊びでバトン  
には触れていたが、小学3年生の時に

転機が訪れる。東京デイズニードリーゾー  
トで観たシルク・ドゥ・ソレイユのシ  
ョー「ZED」に衝撃を受けた。「稲垣正  
司さんという方の演技を観て、芸術性  
の高さに目を見張りました。当時世界  
大会で連勝していた稲垣さんのように、  
僕も世界を目指したいと思いました」  
決意は固く、パトントワーリングの名門PL学園で稲垣氏を指導したコー  
チに師事。地元の新潟から関東に向  
いて教えるを受けることもあった。見よ  
う見まねで覚えてきた技を基本から見  
直し、きれいな回転や安定したボディ  
ワークを心がけた。いったん技のレベ



「いわぶち、けいと」 スポーツ健康科学部3年次生。開志国際高等学校出身。6歳でパトントワーリングを始め、2015年IBTFグランプリ大会ソルトワイルド男子ジュニア優勝、2017年IBTFグランプリ大会ソルトワイルド男子ジュニアおよびアディティブティックワイルド男子ジュニア優勝、2016・2018年世界パトントワーリング男子フリースタイル優勝、2019年IBTFグランプリ大会ソルトワイルド男子ジュニア優勝、2021年全日本選手権ソルトワイルド男子ジュニア優勝、パトントワーリングチーム「GENESIS」所属。

スポ健アスリート列伝 028

### 岩淵圭登さん(3年) Keito Iwabuchi バトントワーリング

### デフテニスの世界王者

ハイレベルな欧州勢を相手に  
世界大会で見事優勝

**テ** ニスプレイヤーだった母の影響  
を受けて、6歳からテニスを始  
める。中学まではスクールで腕を磨  
き、高校は地元の強豪校に進学した。  
テニスの一番の面白さは試合にあると  
言う。シングルスには自分の求めるテ  
ニスができる醍醐味が、ダブルスには  
二人で戦う楽しさが、団体にはチーム  
で勝利の喜びを分かち合う充実感があ  
る。「そこへ向かって自分を追い込ん  
でいくのが好き。過程がしんどいほど  
頑張れる。努力の先に結果が出たとき

の達成感が原動力です」  
生まれた時から難聴で、テニスでも  
普段は補聴器をつけてプレーしてい  
る。高2の時、トルコで行われた世界  
デフテニス選手権に出場した。ルール  
はテニスと同じだが、補聴器は着用禁  
止という点が大きく異なる。日本では  
まだ競技人口が少なく、女子の場合は  
高校生と大学生を中心に強化合宿が行  
われて、菰方さんら代表が決定した。  
一方、ヨーロッパやロシアでは競技人  
口が多く、健常者の大会で好成績を上  
げている選手が出場するケースも少な  
くない。本番ではその中でハイレベル  
な戦いを続け、女子ダブルス優勝など



「こもかた、りな」 スポーツ健康科学部1年次生。三重県立四日市商業高等学校出身。6歳でテニスを始める。2016年、第30回全国ろうあ者テニス選手権大会女子シングルス優勝、2017年、第1回JDTA選手権大会女子シングルス2位、2019年、第2回世界デフテニス選手権大会にて女子ダブルス優勝、ユース女子シングルス優勝、ミックスダブルス3位。体育会テニス部所属。

スポ健アスリート列伝 029

### 菰方里菜さん(1年) Rina Komokata テニス

ルを下げてでも確実に美しい演技を目  
指すようになった結果、当初は試合で  
点数が伸び悩むこともあった。でも、  
気持ちよくなった。バトントワーリン  
グの魅力とは？「自分で目標を決め  
て練習してきた技が試合できて、正  
当に評価されて点数がついたとき、手  
ごたえを感じます。次はこんな技に挑  
戦しようという新たな目標もできる。  
そこがやり甲斐であり、魅力です」

えは出ない。インスパイアされてこそ  
自分のものにできる」というのが持論。  
シルク・ドゥ・ソレイユなどのショー  
や国際試合の演技を観察し、選曲やテ  
ーマも研究する。体の表面でバトンを  
転がす「ロール」という技も、まだまだ  
深めたいと考えている。  
片足を軸にして体を一回転させる技  
を使うため、股関節に故障を抱えてい  
る。ストレッチに時間をかけて体への  
負担を減らすと同時に、フリースタイ  
ルでは優雅な曲よりも、力強さやダイ  
ナミックさを強調する曲をセレクト。  
体の硬さをカバーした上で持ち味をア  
ピールできるプログラムを、コーチと  
ともに構成している。

**レ** ベルの高い日本で勝ち抜き、2  
015年のジュニア優勝を皮切  
りに、シニアデビュー後も世界で勝ち続  
けている。現在の専門はフリースタイ  
ルとソルトワイルド。ソルトワイルドは1  
本のバトンを操る種目、フリースタイ  
ルは自由曲を用いて演技を行う総合表  
現だ。  
現在の課題は表現力と柔軟性の向上  
と言う。パトントニックはジュニア  
時代にある程度完成されるため、シニ  
アでは表現力が重要と考えている。例  
えば一つの動きを止める際、物理的に  
動きをストップするのではなく、その  
先にある世界をイメージしてこそ演技  
に伸びが生まれる。シニアのベテラン  
選手は、そこに一日の長がある。過去  
にはクラシックバレエやダンスも習っ  
て表現力を磨いたが、ゴールはない。  
「表現力は鏡に向かって練習しても答

えは出ない。インスパイアされてこそ  
自分のものにできる」というのが持論。  
シルク・ドゥ・ソレイユなどのショー  
や国際試合の演技を観察し、選曲やテ  
ーマも研究する。体の表面でバトンを  
転がす「ロール」という技も、まだまだ  
深めたいと考えている。  
片足を軸にして体を一回転させる技  
を使うため、股関節に故障を抱えてい  
る。ストレッチに時間をかけて体への  
負担を減らすと同時に、フリースタイ  
ルでは優雅な曲よりも、力強さやダイ  
ナミックさを強調する曲をセレクト。  
体の硬さをカバーした上で持ち味をア  
ピールできるプログラムを、コーチと  
ともに構成している。

見事な成績を取めた。  
テニスに限らず球技では打球音にさ  
まざまな情報が含まれており、それを  
聞いて瞬時に体が反応する。菰方さん  
は補聴器を外すとほとんど聞こえない  
ため、デフテニスでは視覚でカバーす  
る領域が増える。「そのぶん体の動き  
は微妙に遅くなるかもしれませんが、  
かえって集中力が上がり、ボールがよ  
く見えるようになります。感覚がさら  
に研ぎ澄まされるんです」。例えばラ  
ケットから手に伝わる打球の振動がよ  
り鮮明に感じられるようになり、体の  
反応がよくなるのだと言う。打球の強  
さやボールに与える回転のコントロール  
なども、普段より向上するそうだ。

今年春、全日本を制覇し、来年イタリ  
アで行われる世界大会への出場が決定  
している。パトントワーリングは20代  
で現役を退く人が多いが、「できる限  
り続けたい」と岩淵さん。もつとこの  
競技が普及して、オリンピック種目に  
なる日が来るのを夢見ている。

**女** 子でもパワーテニス化が進む  
中、小柄な体ならではの戦い方  
を常に研究している。サーブの打点を  
高くしたり、球の回転を強くしたり、  
フットワークの良さを生かしてしつこ  
いラリーを仕掛け、相手のミスを誘っ  
たり。そのために最近では、体幹の強化  
やサーブ力の向上に取り組んでいる。  
「サウスポーである点も、もつと武器  
にしたい。フォアハンドや回転などが  
逆になるので、右利きのプレイヤーは  
やりにくいはず。それなら逆回転の回  
転量をさらに増やすなどして、もつと  
嫌がられる選手になりたいです」  
目下の目標は大学のリーグ戦で同志

社での勝利に貢献すること。4年に一度  
開かれる聴覚障害者のためのオリンピ  
ック「デフリンピック」への出場にも意  
欲的だ。今年ブラジルで開催予定だっ  
た第24回夏季デフリンピックは202  
2年5月に延期された。このデフリン  
ピックの日本代表になり、海外のトッ  
プ選手に勝って表彰台に上がるのが来  
年の目標だ。国際試合の経験は少ない  
が、世界デフテニスで大きな経験にな  
った。最初は緊張したが、外国人選手  
との対戦を途中から楽しめるようにな  
り、楽しむ気持ちが心身をほぐしてパ  
フォーマンスを引き上げた。「考えず  
ぎでネガティブになっても時間はお構  
いなしに過ぎていきます。それなら切  
り替えて次に行った方がいいかな」と  
言えるしなやかさが、彼女にはあるよ  
うだ。  
美しいキャンパスと京都の街に憧れ  
て、中学時代から同志社大学に行こう  
と決めていた。トレーニング科学に関  
心を持つようになり、スポーツ能力に  
優れた者を対象とする特別入試で本学  
部に進学。政策学部在学中の姉と共に、  
府内で下宿生活を送る。大学での  
学びはスタートしたばかりだが、筋肉  
の量や左右のバランスなどを調べる授  
業が競技者として印象に残った。今後  
はけがのケアや障害者スポーツ論など  
も勉強して、デフテニスの普及にも努  
めたい。4年間で学びを深めながら、  
自分にふさわしい道を見つけないかと  
考えている。



【かわもと・きわこ】近畿大学附属広島高等学校東広島校出身。スポーツ健康科学部4年次生。中学校の3年間、バレーボール部で活動。高校3年間と大学1年次は男子バレーボール部でマネージャーを務め、大学2年次でアナリストに転向。2019年12月よりアナリストとしてVC長野トライデンツに所属。

スポーツにデータ分析は必須の時代。バレーボールのファンからアナリストを志し、在学中にV1リーグ男子チームのアナリストとなったエネルギーギッシユなスポーツ生をご紹介します。

### バレーボールの戦術立案に アナリストは今や不可欠

小学生の頃から男子バレーボールの迫力に惹かれ、日本代表チームの試合を観戦するのが好きだった。中学生になると自分でもバレーボールを始め、アナリストの存在を知る。日本バレーボール協会やV1リーグの公式サイトでプレーの詳細な記録を見て、データへの関心を深めていった。「ずっと眺めていられるくらい、データを見るのが面白かった。興味のあることは徹底的に追求して、詳しく知りたいタイプです」

高校時代は男子バレー部のマネージャー

ヤー。当時もアナリストをしたかったが、年間13万円かかる専用ソフトに手が出ず、紙ベースで独自にデータ分析を続けた。高3になって夢を諦めきれず、アナリストを経験できそうな環境を求めて本学に進学。「マネージャーを1年務めて選手との信頼関係を構築できた」という条件付きで、男子バレー部に入学し、2年次からアナリストを始めた。

今やIDバレーは世界の常識だ。試合中、タブレットやPCを手にした監督が選手に指示を出すシーンはおなじみになっている。アナリストは試合を俯瞰できる2階に陣取り、リアルタイムで自チームと相手チームのデータを入力し、決定率や傾向などを分析する。情報はネットワークに繋がったベンチの端末に送られ、監督やコーチが活用する仕組みだ。試合後数時間でミーテ

ィングにデータを使うので短時間で編集しなければならず、休み間もない。会場に残って次の対戦相手のデータ収集をしたり、映像を取り寄せて分析したりすることもあった。

レシーブやアタックの方法、ブロック枚数など、入力項目は多岐にわたる。ボールの位置もコートに36分割して記録。こうすることで、ローテーションごとのプレーの特徴などもあぶり出される。優れたアナリストは膨大なデータを解き明かすことによって、二手も三手も先のプレーを予測できるのだ。

アナリストになるために必要な勉強とは？「バレーボールのルールを学ぶことはもちろん、パソコンのスキルも必要。英数記号を組み合わせたコードをリアルタイムで打ち込むので、正確なタイピング技術も求められます。統計学も独学しました」。通常、アナリストは監督・コーチと選手とのパイプ役だが、コーチとして選手に指示を出すことも。大学ではコーチングやスポーツ心理学も学び、情報の適切な伝え方や、選手にマイナスイメージを起させない接し方など、仲介役としてのスキルも磨いてきた。

### 素早いアクションで V1リーグでのチャンスを掴む

行動力が素晴らしい。大学バレー部の同期の紹介でV1リーグの学生アナリストと友人になった。情報交換をするうち、長野県上伊那郡南箕輪村をホ

ームタウンとするVC長野トライデンツがアナリストを探しているという情報をキャッチ。「後悔したくない」という思いが長野へと向かわせた。試合の運営ボランティアを務めながら、スタッフを通じて監督・GMとの面談を取り付け、その場で採用された。2年次の12月だった。

当初は大学バレー部でのアナリストと両立させていたが時間的に困難になり、バレー部は2年次の1月で区切りをつけた。現在はVC長野の試合があるりと全国各地の試合会場へ赴いて仕事をし、普段はオンラインでやり取りをする。来年4月には正社員として採用され、常駐アナリストとしての生活が長野で始まる。

「このミーティング資料分かります！」と選手に喜んでもらえた時や日本代表選手を多数抱えるチームに勝利した時に、やり甲斐を感じる。求められたデータをすぐに編集して取り出せる対応力、多面的な物の見方、プレゼンテーション力など、常に課題を見つけて進化を続ける。突き詰めても終わりのない仕事だが「選手に信頼されるアナリスト」が目標だ。「V1リーグにはアナリストが複数いるチームもあり、どんどん重要視されてきています。データを読むことで競技への関心を深めていくファンもいます。できるだけ長くVC長野で仕事を続けて、アナリストという職業を広めていきたいと思っています」

## 母から子へ、子から母へ

### 母から子へ

母・高橋美津子さん

毎号、スポーツ健康科学部の一組の親子をご紹介します。

海のように広く大きな志を持てる人になってほしい。そんな願いを込めて海志(かいい)と名付けました。その小さな体を初めて抱いたときの喜びと感動は言葉にはできません。海志にもいつかそんなかけがえない存在ができることを楽しみにしています。

小さい頃は、夜泣きをしたり寝付かなかつたりと、大変な毎日でした。実家にいる間は、両親や姉に助けられ、どうにかやっていましたが、自宅に戻るとどうして良いかわからず、怒ってしまうことが多々ありました。育児ノイローゼ気味だったのかも知れません。それでもどうにか必死に子育てをしてきたある日、ご飯を作っていると海志の泣き叫ぶ声が聞こえました。まだ2歳になる前だったと思いますが、寝室の前で大泣きする海志がいました。ドアに指を挟んだようで、小さな手からは血が流れ、爪なのか指先なのか取れてしまっているように見え、私も叫びました。指先がなくなっていたらどうしよう、なんてちゃんと見ていなかったのかと自分を責め、泣くの堪えながらとにかく病院に連れていきませう。その後のことはあまり覚えていないのですが、恐らくそんなに大きな怪我ではなかったでしょう。指は取れておらず、爪だけが損傷したのだと思いますが、故以来、私の気持ちは大きく変わりました。

泣くほど辛い思いを二度とさせたくないと、強く思うようになったのです。それまでは泣かれることを厭わず、自分の都合を

押し付けて怒っていたことを自覚しました。

子供だから服を着るにも靴を履くにも時間がかかると歩くのもゆっくり。早く公園に行かなければいけないなんて、考えてもいない。全て私の勝手な都合だったのです。

私は半人前で子供を産んだので、人よりも時間がかかってしまいましたが、やっと親になることの意味が分かった気がしました。子供を産んだら親になるのではなく、子供と一緒に学びながら親になっていくのだと、子供が私を親にしてくれているのだと感じました。私にとって海志の笑顔や存在そのものがかけがえないもの、そしてその大切な笑顔は、怪我や事故でいつても失う可能性があるということ、本当に大事にしなければいけないことにやっと向き合えるようになったのです。そしてそれ以来ずっと海志から教わることはばかりです。

ひとり親で仕事ばかりしていた私に代わって、3歳ごろからは両親が我が子同然に愛情深く育ててくれました。お陰で優しく逞しい、自立した素敵な子に育ちました。大学進学のために家を出ると決め、塾も行かず自力で合格をつかみ取り、4年間親元を離れて過ごして学んだ多くの経験は、海志の血となり肉となったと思います。これからは社会人という新たなステージで、更なる大きな志を胸に一歩ずつ前に進んでいってください。

時には休憩もしてね。

海志を愛してやまない家族より

### 子から母へ

子・高橋海志さん

せっかくこうした機会をいただいたので、普段言葉にできていないありのままの感謝の気持ちを手紙で伝えたいと思います。

小さい頃から体を動かすことが大好きだった自分は近所のお兄さんに誘ってもらったことがきっかけで小学1年生からサッカーを始めました。初めはなんとなくやっていたものの、学年が上がるにつれサッカーがかけがえないものとなり、中学でも部活ではなくクラブチームでサッカーをすることを決断しました。連日、夜遅くまで練習があり、家族と一緒に晩ご飯を囲む回数も減ってしまいました。しかし、帰って来たとき灯っている玄関の明かりと食卓に置いてある晩ご飯を見て、家の安心感と母のありがたみを感じていました。

高校に上がっても、部活ではなくクラブチームでサッカーがしたいと考え、両親に相談しました。お金がかかるにもかかわらず、「自分の好きなことに熱中しなさい」と背中を押してくれました。学校帰り、遠い練習場に電車で向かい、終電で帰ることもありました。夏休みは連日、遠方で試合があったり、合宿が続いたりたくさん迷惑をかけました。そんな中でも、朝早くから弁当を用意してくれたり、合宿費や交通費を負担してくれたりと、常に自分がサッカーに専念できるようにサポートしてくれました。1番の味方でいてくれました。本当に何をしても私の意思を優先してく

れて、何に対しても寛容に育ててくれたおかげで今の自分があると思っています。

そんな寛大な母でも、大学進学が決断の際には唯一、私の考えに反対し、衝突してしまいました。生まれ育った環境を飛び出し、もっとたくさんのお会いや発見したいと考え、地元から遠く離れた同志社大学に進学したいと伝えたのに対し、「地元の東京の大学に行きなさい」と反対をされてしまいました。今考えると、一人息子が遠くに行ってしまうことが寂しかったのではないかと思っています。頑固な自分は考えを変えようとはできず、結局同志社大学への進学を決めました。しかし、母は最後には自分の考えを尊重し、背中を押してくれました。実家と両親が大好きな私は、今では1年に数日しか会えず、毎日ホームシック状態ですが、自分が京都にきたことで年に数回、こちらに遊びに来て京都観光を楽しんでいるところを見ると、この決断も悪くなかったと安堵しています。

何歳になっても大人になれず、心配をかけ続ける自分をいつでも遠く離れた場所から見守ってくれて、不自由なく生活できるようにサポートしてくれてありがとう。来年からは社会人になる自分ですが、少しでも独り立ちしてこれまでの恩を返せるように頑張るので、これからも見守ってください。



●次号(2022年11月発行予定)のこのページを執筆いただける親子1組(ただし2019年度以降生)を募集いたします。希望される方はAD(2022年2月21日まで)に、17頁に掲載の教員父母連絡会事務局メールアドレスへ、親・子それぞれの氏名、学生IDを明記して応募ください。なお、応募多数の場合は抽選といたします。